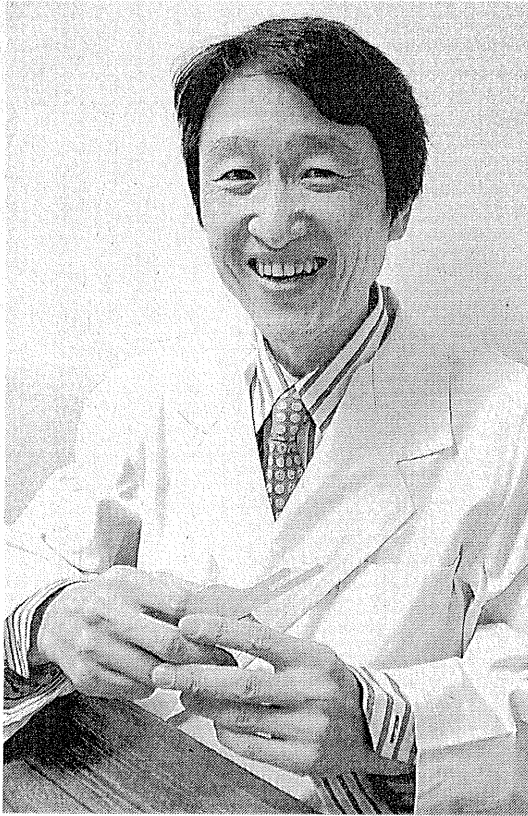


目薬开封器で特許 眼科医・村上茂樹さん(50)



宇土市南段原町で「むらかみ眼科クリニック」を開業する村上茂樹医師(50)が11月、使い切り目薬の小さな容器を開ける器具を考案し、特許を取った。お医者さんが器具の発明? 患者のためを思って考えた开封器とはどんなものか。興味を持って訪ねた。

【結城かほる】

— 开封器の使い方 を教えてください。

◆プラスチックでできた开封器の二またの部分に目薬のふたを差し込んで回します。二また部分の長さが違うようにしたのは、見えにくくなった人でも目薬をつけやすくするためです。長さの違いで示すガイド機能が、开封器そのものと合わせて特許の対象になりました。握る力の弱い人が使いやすい長さ約15センチの「大」と、携帯に便利な半分くらいの

「小」があります。作ったきっかけは何でしょう。

◆患者さんの要望があったからです。リウマチで指先に力が入らない人から「目薬の容器が開けにくく、手が痛くなる。前の薬に戻してほしい」と言われ、良い薬なのにと悩んでいたんです。

— 眼科でリウマチですか?

◆全国に100万人いると言われる関節リウマチ患者の2割が重症のドライアイを併発しています。重症の患者には、防腐剤を含まない薬を使いますが、その容器が1回使い切りで小さいうえに、品質を保つため材質が固

い。開けるのに力が必要。アイディアはどこで得ましたか。

◆4年前の夏、次女が自由研究に選んだ「町にあるユニバーサルデザイン(U・D)を探す」を手伝っていた時です。握力が弱くてもペットボトルを開放できる道具を図書館の

「なぜ特許を申請したのでしょ。

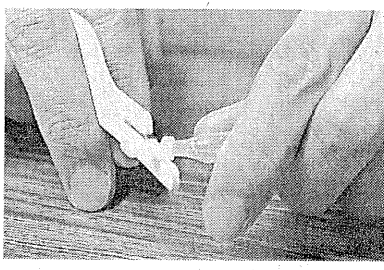
◆より多くの人が使えるよう製品化するために必須だからです。薬そのものの効果だけでなく、開けやすさとか使い勝手など全体を

「使い勝手も治療のうち」

展示を見て、目薬の容器を変えるのではなく、指の代わりになる道具を作ろうと思いましたが。リウマチ専門医に相談して「指先が不自由なら手首を使えば

整えることが「良い治療」には必要だと実感しました。試作品を基に、どれだけ開封時間を短縮できるかなどについてメーカーと研究していきます。

プロフィール 山口県秋田市出身。順天堂大卒業後、聖十字会西日本病院眼科部長(熊本市)などを経て96年に開業した。07年から順天堂客員准教授に就任してスポーツ健康医学の研究もしている。毎日7時のランニングを欠かさない。



指先に力が入らなくても指にはさんで使える「目薬开封器」(左)

吐く息の蒸気で目の周りの湿度を上げる「ドライアイ対応マスク」でも特許をお持ちとか。発明が好きなんですね。

◆発明や研究を大学の研究者だけでなく、開業医もすることは大事だと思います。直接診療できる患者は一生かけても数十万人くらいです。でも患者さんの声や自分が考えたことを、マスクや开封器に製品化すれば、もっと大勢を良い治療につなげられますからね。

会
いた
い
聞
きた
い